

犬の暮らし向き調査研究(2009年)の概要について

この度は、動物の暮らし向き調査研究(2009年)にご協力いただき心からお礼申し上げます。おかげさまで犬2,536頭、猫1,327頭の貴重なデータを得ることができました。

前回(2008年)の調査では、本協会の会員を調査者とし、会員の知人等を調査協力者として調査をお願いし、回答いただきましたが、両者を区別できない状態での回答が数多く見られたため、データを分けて整理することはできませんでした。今回の調査では管理士用、一般用と調査票を区別したところ、管理士用に犬1,656頭、猫889頭、一般用に犬880頭、猫438頭のデータを得ることができました。まだまだ理解度の低いこの分野で、これだけの数のデータが得られたことには、協力者の大変な努力があったわけで、皆様には心から敬意を表します。

これらのデータは、後述するように、できれば1,000頭くらいの調査数が欲しいとされています。したがって、本号では、犬の調査研究データについて、管理士、一般に分けないで、今まで同様大きくくりのまま単純集計した結果を報告することにいたします。ご了承ください。

犬の調査結果については、本調査研究の対象において、調

査個体が変わっても結果(集団値)にはほとんど影響しないことが3年連続して見られました。しかし、寿命などの解析には、少なくとも各群1,000頭ぐらいの数を必要とするとの意見もあります。したがって、寿命解析の精度を上げるために、今回の調査では、①項目はできるだけ少なくし、寿命の解析に係わる項目に焦点を絞り簡易化することによって、なんとしても協力者の数を増やすこと ②同じ個体から毎年続けてデータを取る ③2頭以上飼養している場合には、年齢の小さいほうのデータを優先していただくことなどが必須の課題と考えます。また、同じ犬を調査対象とする場合、『愛玩動物』1月号とともに配付する調査用紙には前回ご記入いただいた回答があらかじめ印刷してありますので、新たに記入していただく項目は少なくなっています。

なお、猫の予備調査の集計結果は、『愛玩動物』平成23年3月号にて報告する予定です。

最後に、お忙しい中、本調査研究にご協力いただいた管理士および一般の皆様へ厚くお礼申し上げます。

飼養管理調査研究委員会

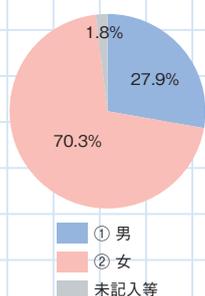
調査研究結果の概要

1. 飼い主の性別

	頻度	パーセント
① 男	707	27.9%
② 女	1,783	70.3%
未記入等	46	1.8%
計	2,536	100.0%

昨年と同様に女性が70%を占めている。内訳を見ると管理士は25%が男性であるのに対して、一般は33%が男性であった。参考までに、調査の主な対象である会員の男女構成は、概算で男性が約16%、女性が約84%である。

図1. 飼い主の性別(全体)

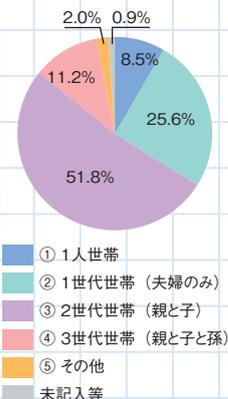


2. 飼い主の世帯

	頻度	パーセント
① 1人世帯	215	8.5%
② 1世代世帯(夫婦のみ)	650	25.6%
③ 2世代世帯(親と子)	1,314	51.8%
④ 3世代世帯(親と子と孫)	284	11.2%
⑤ その他	50	2.0%
未記入等	23	0.9%
計	2,536	100.0%

飼い主の世帯は2世代世帯が51.8%(昨年度53.2%)で圧倒的に多く、次いで1世代世帯が25.6%(昨年度23.9%)、合わせて77.4%(昨年度77.1%)となっている。この比率は管理士、一般とも同じようであった。

図2. 飼い主の世帯



3. 飼い主の居住都道府県

	世帯の集計	パーセント
1 北海道	113	4.5%
2 青森県	15	0.6%
3 岩手県	20	0.8%
4 宮城県	50	2.0%
5 秋田県	15	0.6%
6 山形県	21	0.8%
7 福島県	49	1.9%
北海道・東北小計	283	11.2%

24 三重県	32	1.3%
25 滋賀県	35	1.4%
26 京都府	36	1.4%
27 大阪府	148	5.8%
28 兵庫県	91	3.6%
29 奈良県	37	1.5%
30 和歌山県	28	1.1%
近畿小計	407	16.0%

8 茨城県	46	1.8%
9 栃木県	36	1.4%
10 群馬県	31	1.2%
11 埼玉県	159	6.3%
12 千葉県	169	6.7%
13 東京都	345	13.6%
14 神奈川県	307	12.1%
関東小計	1093	43.1%

31 鳥取県	3	0.1%
32 島根県	9	0.4%
33 岡山県	58	2.3%
34 広島県	63	2.5%
35 山口県	23	0.9%
36 徳島県	21	0.8%
37 香川県	12	0.5%
38 愛媛県	13	0.5%
39 高知県	7	0.3%
中国・四国小計	209	8.2%

15 新潟県	61	2.4%
16 富山県	27	1.1%
17 石川県	14	0.6%
18 福井県	13	0.5%
19 山梨県	16	0.6%
20 長野県	44	1.7%
21 岐阜県	20	0.8%
22 静岡県	79	3.1%
23 愛知県	98	3.9%
中部小計	372	14.7%

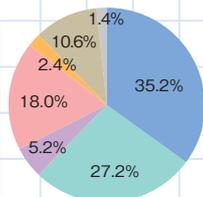
40 福岡県	75	3.0%
41 佐賀県	9	0.4%
42 長崎県	5	0.2%
43 熊本県	7	0.3%
44 大分県	15	0.6%
45 宮崎県	12	0.5%
46 鹿児島県	19	0.7%
47 沖縄県	15	0.6%
九州・沖縄小計	157	6.2%
未記入等	15	0.6%
計	2,536	100.0%

昨年とよく類似している。都道府県で見られる差は、人口の分布および会員の分布とほぼ一致している。

4.入手方法

	頻度	パーセント
① ペットショップ	892	35.2%
② 繁殖家等	691	27.2%
③ 行政・団体等	132	5.2%
④ 知人等から	456	18.0%
⑤ 保護した	61	2.4%
⑥ その他	269	10.6%
未記入等	35	1.4%
計	2,536	100.0%

図3.入手方法



- ① ペットショップ
- ② 繁殖家等
- ③ 行政・団体等
- ④ 知人等
- ⑤ その他
- ⑥ 上記以外
- 未記入等

これまでとよく類似している。ペットショップ、繁殖家等から入手する人が約60%で圧倒的に多い。多くの人が犬を購入していることになる。それに対し、行政・団体等からの入手は約5%となっている。これまで「その他」と回答してきたものから「保護した」を拾いあげると、2.4%でこれまでと近い値であった。今後は選択肢を工夫する必要がある。

6.犬口ピラミッド2009

年齢	雄	雌	年齢	雄	雌	年齢	雄	雌
0	30	44	10	51	76	20	0	0
1	72	85	11	45	69	21	0	0
2	81	102	12	34	59	22	0	0
3	106	118	13	38	49	23	0	1
4	103	132	14	28	43	24	1	0
5	103	115	15	26	19	25	0	0
6	100	114	16	12	14	26	0	0
7	103	120	17	5	5	27	0	0
8	63	88	18	3	3	28	0	0
9	85	94	19	2	2	合計	1091	1,352

昨年、一昨年の結果と非常に類似した分布を示しており、調査対象集団の特徴が現れていると思われる。すなわち、雌雄ともに10歳の犬は少なく、最大となる4歳まで年齢が増加するとともに増えている。さらに加齢すると、犬の数は急速に減少している。また、3年連続で同じような傾向が見られたことは、集団としての特徴が存在することはもちろんのこと、雌雄別、手術の有無別の死亡について、何らかの法則性(死亡の秩序)が存在する可能性がうかがわれたので、専門家をお願いして解析してみたが、統計的有意差を見出すには至らなかった*。

5.個体識別(複数回答)

	頻度	パーセント
① 有	1,821	71.8%
(1) 名札	1,626	64.1%
(2) マイクロチップ	197	7.8%
(3) その他	31	1.2%
② 無	674	26.6%
未記入等	41	1.6%
計	2,536	100.0%

(1)名札、(2)マイクロチップ、(3)その他は、複数選択可能としました。また、これらの数値は、頻度の計である2,536に含まれていません。

個体識別をしている人の割合は、ここ3年少しずつ伸びてきている。調査対象者別では管理士が75.0%に対して一般が65.8%であった(χ^2 検定、 $P<0.01$)。

図4.個体識別

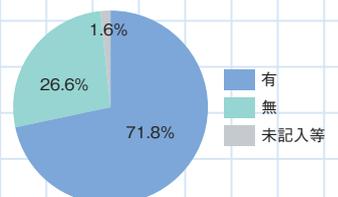


図5.個体識別の種類

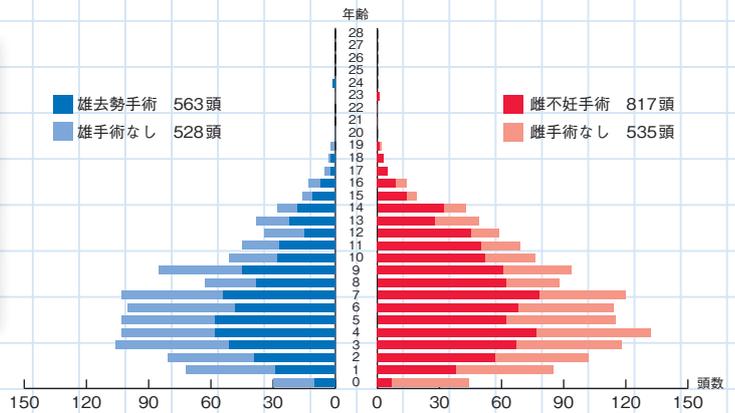
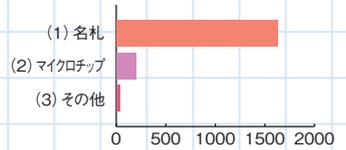


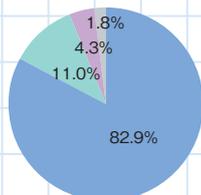
図5.犬口ピラミッド2009

*統計解析は国立社会保障・人口問題研究所情報調査分析部主任研究官の別府志海先生にご協力いただきました。ここに感謝の意を表します。

8.品種1

	頻度	パーセント
① 純血種	2,102	82.9%
② 雑種	280	11.0%
③ ミックス	109	4.3%
未記入等	45	1.8%
計	2,536	100.0%

図6.品種

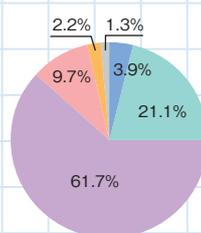


- ① 純血種
- ② 雑種
- ③ ミックス
- 未記入等

10.体型(飼い主の判断による)

	頻度	パーセント
① 太っている	100	3.9%
② やや太っている	535	21.1%
③ ふつう	1,565	61.7%
④ やや痩(や)せている	245	9.7%
⑤ 痩(や)せている	57	2.2%
未記入等	34	1.3%
計	2,536	100.0%

図7.体型



- ① 太っている
- ② やや太っている
- ③ ふつう
- ④ やや痩(や)せている
- ⑤ 痩(や)せている
- 未記入等

太っているかどうかの基準は示さないで、飼い主の判断により得られた結果である。

9.品種2(純血種上位20種)

品種	頻度	パーセント
(32) ブードル(スタンダード、ミディアム、ミニチュア、トイ)	261	12.4%
(25) ダックスフンド(ミニチュア、カニンヘンを含む)	253	12.0%
(18) 柴	149	7.1%
(26) チワワ	134	6.4%
(42) ラブラドル・レトリバー	134	6.4%
(15) ゴールデン・レトリバー	109	5.2%
(10) ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	86	4.1%
(16) シーズー	82	3.9%
(22) シュウザー(ジャイアント、スタンダード、ミニチュア)	62	2.9%
(30) パピヨン	57	2.7%
(36) ボーダー・コリー	55	2.6%
(31) ビーグル	50	2.4%
(40) マルチーズ	49	2.3%
(17) シェットランド・シープドッグ	48	2.3%
(41) ヨークシャー・テリア	48	2.3%
(38) ボメラニアン	45	2.1%
(12) キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	41	2.0%
(21) ジャック・ラッセル・テリア	27	1.3%
(35) ブルドッグ(フレンチ・ブルドッグを含む)	27	1.3%
(29) バグ	23	1.1%
(45) その他の純血種	165	7.8%
その他の選択肢	189	9.0%
未記入等	8	0.4%
純血種提出計	2,102	100.0%

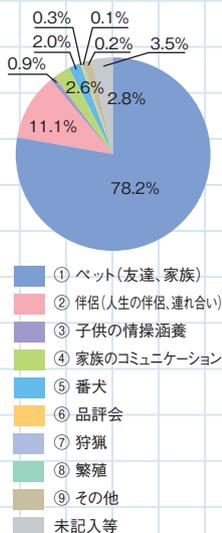
昨年は大分類から品種を選択する方式だったが、今回は直接選択する方式で品種を尋ねた。傾向としては、昨年と同様、小型犬に人気集中しているような結果が得られた。一方では、こちらも昨年と同様、大型犬でもレトリバーは人気が高かった。

11. 主な飼う目的・動機(1つ選ぶとすれば)

	頻度	パーセント
① ペット(友達、家族)	1,982	78.2%
② 伴侶(人生の伴侶、連れ合い)	281	11.1%
③ 子供の情操涵養	22	0.9%
④ 家族のコミュニケーション	65	2.6%
⑤ 番犬	50	2.0%
⑥ 品評会	7	0.3%
⑦ 狩猟	2	0.1%
⑧ 繁殖	6	0.2%
⑨ その他	33	1.3%
未記入等	88	3.5%
計	2,536	100.0%

ペットと答えた人が78.2%で、昨年の78.0%とほぼ同じであった。内訳については、ペットと答えたのは管理士が78.3%、一般が78.0%でほぼ同様の割合であった。伴侶と答えたのは管理士が12.6%で一般が8.2%であった。

図8. 主な飼う目的・動機(1つ選ぶとすれば)

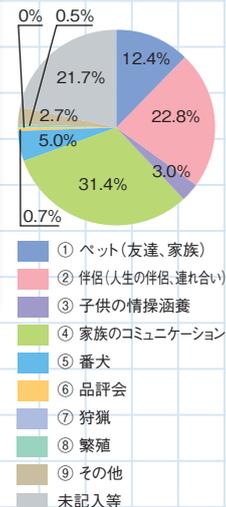


12. 主な飼う目的・動機(2つ選ぶとすれば2つ目は)

	頻度	パーセント
① ペット(友達、家族)	314	12.4%
② 伴侶(人生の伴侶、連れ合い)	577	22.8%
③ 子供の情操涵養	75	3.0%
④ 家族のコミュニケーション	796	31.4%
⑤ 番犬	126	5.0%
⑥ 品評会	18	0.7%
⑦ 狩猟	0	0.0%
⑧ 繁殖	12	0.5%
⑨ その他	68	2.7%
未記入等	550	21.7%
計	2,536	100.0%

昨年と同様に、1つだけ選択した場合に隠れていた「家族のコミュニケーション」が現れてきた。

図9. 主な飼う目的・動機(2つ選ぶとすれば2つ目は)

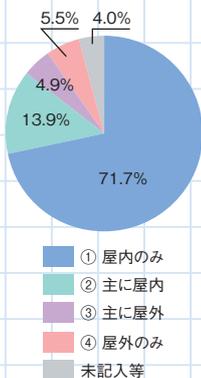


13. 飼っている場所

	頻度	パーセント
① 屋内のみ	1,818	71.7%
② 主に屋内	352	13.9%
③ 主に屋外	124	4.9%
④ 屋外のみ	140	5.5%
未記入等	102	4.0%
計	2,536	100.0%

屋内のみで飼っている人が71.7%で、昨年の70.0%と同様の割合であった。

図10. 飼っている場所

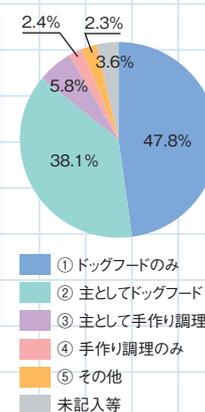


14. 主な食事

	頻度	パーセント
① ドッグフードのみ	1,211	47.8%
② 主としてドッグフード(他に手作り調理もときどきまたは少しづつ)	967	38.1%
③ 主として手作り調理(他にドッグフードもときどきまたは少しづつ)	146	5.8%
④ 手作り調理のみ	62	2.4%
⑤ その他	58	2.3%
未記入等	92	3.6%
計	2,536	100.0%

ドッグフードを中心に与えている人が85.9%で、昨年の86.8%と同様に多数を占めた。

図11. 主な食事

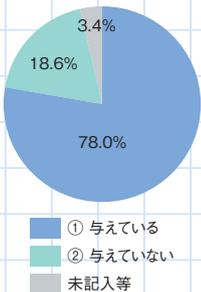


15. おやつ(しつける時に与える場合は除く)

	頻度	パーセント
① 与えている	1,977	78.0%
② 与えていない	472	18.6%
未記入等	87	3.4%
計	2,536	100.0%

昨年と同じ傾向が見られ、与えている人が約80%を占めた。

図12. おやつ

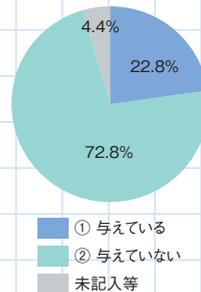


16. サプリメント

	頻度	パーセント
① 与えている	578	22.8%
② 与えていない	1,846	72.8%
未記入等	112	4.4%
計	2,536	100.0%

昨年と同じ傾向が見られ、与えている人は少数派であった。

図13. サプリメント

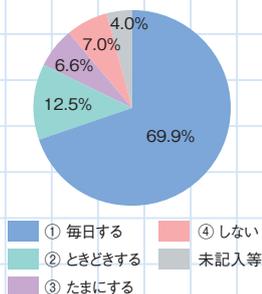


17. 散歩

	頻度	パーセント
① 毎日する	1,772	69.9%
② ときどきする	317	12.5%
③ たまにする	167	6.6%
④ しない	178	7.0%
未記入等	102	4.0%
計	2,536	100.0%

昨年と同じ傾向が見られ、毎日散歩する人が約70%であった。

図14. 散歩



管理士と一般の方の調査結果について

一般の方約1,000名にご協力いただきましたことに心からお礼申し上げます。一般の方のデータ数が少ないため、厳密な比較検討はできないものの、管理士と一般の方の多くの調査項目ではほぼ同様な結果が得られましたが、誌面の都合で割愛させていただきました。

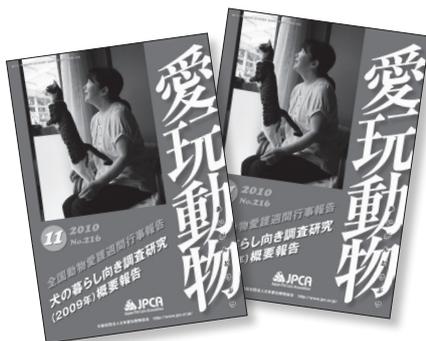
調査研究に対する ご協力のお礼

皆さんの熱心なご協力によりまして、予備調査1回、本調査2回を行うことができました。おかげさまで管理士を中心とする人間集団の飼養する犬の暮らし向きがかなり明らかになってまいりました。次回の調査票は、犬口ピラミッドを中心に、犬の死亡年齢、年齢別死亡率などがより正確に把握できるように調査を簡易化したいと考えております。そのためにはまず調査協力者の数を大きくすることが必要です。また、今回の調査で特徴的なこととして、犬の死亡率がきわめて低いことも挙げられます。もし愛犬が死亡したようなときは、悲しさのあまり、調査研究への協力どころではないというお気持ちの方もおられることと思います。しかし、この調査研究の目的をよくご理解いただき、冷静にデータを記録くださいますようお願いいたします。

機関誌が
通常より1冊多く
同封されている
方へのお願い



『愛玩動物』平成22年新年号(通巻211号)に同封いたしました「犬の調査票 一般用」で調査いただいた方には、概要報告を記載している本号(通巻216号)の機関誌を1冊追加して同封しております。つきましては、お忙しい中、恐縮ではございますが、調査をご協力いただいた一般の方に概要報告についてご説明していただくとともに、1冊贈呈をお願いいたします。



第3回

「日本動物大賞」募集

主催：財団法人日本動物愛護協会

日本動物大賞とは

財団法人日本動物愛護協会は、平成20年5月、創立60周年を迎え、その特別記念事業の一環として「日本動物大賞」を創設しました。この事業は、本協会が長年にわたって実施してきた動物愛護功労者および功労動物の顕彰制度を、より広く全国レベルに拡大するとともに、「動物愛護管理法」のさらなる普及啓発を図り、動物愛護活動を国民運動にまで発展させる契機にしようとするものです。

概要

■募集部門

(1) 功労動物部門

人命の救助等に貢献した動物、長寿の動物、人と動物の共生への理解に寄与した動物(親しまれている、生命・生態ならびに種の保存への理解、感銘・感激を与えたなど)など。人の管理下でない野生動物も対象とする。

(2) 動物愛護部門(個人、団体)

動物の愛護の推進ならびに福祉の向上、野生動物の保護等に寄与している活動。動物愛護思想の普及啓発に多大な効果をもたらしている活動(成果品としての個々の作品(著作、芸術作品等)は含まない)。

■各賞

(1) 日本動物大賞(賞状、副賞*賞金10万円、記念牌)

「動物愛護管理法」の趣旨に即し、最も寄与したと認定するもの。

(2) 功労動物賞(賞状、副賞*賞金3万円)

人と動物の共生ならびに動物理解に特に寄与したと認定する動物3点以内。

(3) 動物愛護賞(賞状、副賞*賞金3万円)

動物愛護に特に寄与したと認定する個人・団体3点以内。

■募集期間 平成23年1月31日(月)まで(必着)

■応募方法

所定の応募申請書があります(下記事務局までお問い合わせください)。

[功労動物部門]

応募申請書に必要事項を記入し、推薦者の推薦状、応募内容を証明できる資料・写真等(A4版サイズ用紙5枚以内)を添えて、事務局宛てに送付してください。

[動物愛護部門(個人用、および団体用)]

応募申請書に必要事項を記入の上、事務局宛てに送付してください。自薦の場合は、1名以上の推薦者を立て、応募内容を証明できる資料・写真等(A4版サイズ用紙5枚以内)を添えてください。他薦の場合は、推薦者の推薦状、被推薦者の申請承諾書、応募内容を証明できる資料・写真等(A4版サイズ用紙5枚以内)を添えてください。

■審査結果の発表ならびに表彰

審査の結果は、平成23年3月下旬に財団法人日本動物愛護協会のウェブサイトにおいて発表予定です。入賞者には、個別に連絡いたします。

ご応募・お問い合わせ先

財団法人日本動物愛護協会 事務局

〒107-0062

東京都港区南青山7-8-1 南青山ファーストビル6階

TEL. 03-3409-1821 / FAX. 03-3409-1868

URL <http://www.jspca.or.jp/>

E-mail info@jspca.or.jp